

学 校 だ よ り

長崎っ子の心を見つめる教育週間

I 校長講話



6月30日（金）に「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が始まりました。朝から、始まりにあたり、私から子どもたちに講話を行いました。

○どうして教育週間が設定されるようになったのか？

20年前に起きた、幼い子の命が失われた悲しい事件について話し、二度とそのようなことがあってはいけない、との強い思いから設定されたことを確認しました。

○命はどうしてたいせつなの？

命の大切さについて考えるための絵本を図書館司書の 先生に紹介してもらいました。

「命はどうしてたいせつなの？」というタイトルです。絵本をプロジェクターで拡大して子どもたちに見せながら、読み語りを行いました。命は多くの人とのつながりの中で、育まれていくものであることを学びました。普段は忘れているこのつながりを「ありがとう」という言葉が思い出させてくれることが記されていました。

本校では、今年度スローガンを「絆を大切にし、確かな学力を身につけさせる学校」と設定しています。人と人とのつながりを大事にしながら、みんなが夢に向かって笑顔で生活できることを願い、話をさせてもらいました。

II 被爆体験講話

6月30日（金）5、6校時は長崎平和推進協会継承部会員でいらっしゃる さんを講師にお迎えし、「被爆体験講話」を実施しました。さんは6歳の時に、立山の自宅で被爆さ

れました。その後、金比羅山に避難されましたが、そこで、長崎市の街が赤く燃えていくのを見られたという経験をされました。小学校の先生を退職されてからも、まだ、子どもたちに原爆や戦争について伝えきれないとの思いから、現在、語り部としての活動を行われています。子どもたちに、当時は話をしていただき、平和について考えるきっかけを与えていただきました。



III 命を考える講話

7月4日（火）5、6校時は さんを講師にお迎えし、「命を考える講話」を実施しました。さんからは、命について考えるために、多くのことを話していただきました。私たちの命は、多くの人のバトンを受け継いだ命であること 東日本大震災での人を思いやる行動 子どもたちの誕生は奇跡であること 命は多くの人の支えによって育まれること・・・多くの視点から命について考えさせてもらいました。講話の最後に、さんから子供たちに、「みんな、生まれてきてくれて ありがとう」との言葉をいただきました。子どもたちの心にも残るものが多くあったのではないかと思います。



教育週間で命について学んだことを振り返り、自分の命も周りの人の命も大切にし、豊かな心で学校生活を送ってほしいと思います。